

I-3 健康増進課

1 保健・医療・福祉包括ケアシステムの推進

保健・医療・福祉包括ケアシステムとは、地域のすべての住民がたとえ疾病や障害をもっても、生きがいを持ち、安心・安全な生活を送ることを目的に、保健・医療・福祉等の各機関が十分に役割を果たすことができる仕組みを推進するものです。

(1) 地域・職域連携推進協議会

地域保健と職域保健の連携により、生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制を整備することを目的とし、地域・職域連携推進協議会を開催しました。平成21年度から地域保健医療推進協議会保健対策部会と併催し、健康あおもり21下北圏域計画(第2次)の推進について協議しました。

開催日	開催場所	出席者
平成29年 9月4日	むつグランドホテル	26人 (委員:15人、オブザーバー(市町村):3人、事務局:9人)

(2) 認知症地域連携懇談会

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、認知症の早期発見・早期対応のための体制整備や医療及び介護の連携の推進を図ることを目的に懇談会を開催しました。

開催日	内容	開催場所	出席者
平成30年 1月22日	1 情報提供 (1)「県内の認知症施策の取組状況について」 (2)「むつ総合病院認知症疾患医療センターの役割と取組状況について」 2 情報交換 「管内市町村の認知症施策の推進に向けて」	プラザホテルむつ	14人 (認知症疾患医療センター:1人、認知症サポート医:5人、市町村(委託地域包括支援センター含):8人、県高齢福祉保険課:1人、保健所:6人)

(3) 医療介護連携調整実証事業

顔と顔の見える関係づくりを大事にし、「橋渡し窓口」の内容の充実と橋渡し看護・介護の質の向上に努め、更に医療と介護の連携が深まることを目的に事業を実施しました。

年月日	内 容
平成 29 年 6 月 12 日 13 日	<p><病院等へ事業説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業開始にあたり、むつ総合病院、むつりハビリテーション病院、大間病院、むつ下北医師会会長へ高齢福祉保険課及び保健所で説明廻り（院長、総看護師長、連携室等関係職員）
平成 29 年 8 月 24 日	<p><市町村等担当者会議></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村及び地域包括支援センター職員が 19 人出席 ・市町村及び地域包括支援センターへ事業説明及びケアマネアンケート調査の依頼、入退院調整の現状及び在宅医療介護連携推進事業の進捗状況等について意見交換
平成 29 年 8～10 月	<p><ケアマネアンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村に対し、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所のケアマネを対象としたアンケート調査の集計を依頼し、調査結果を分析
平成 29 年 11 月 21 日	<p><ケアマネ協議></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村及び地域包括支援センター職員が 22 人出席 ・市町村及び地域包括支援センターへケアマネアンケート調査結果の情報提供及び現状の入退院調整の流れを確認
平成 30 年 1 月 26 日 31 日	<p><病院へ事業実施状況等説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村及び地域包括支援センター職員が 22 人出席 ・ケアマネアンケート調査結果の報告等について、むつ総合病院、むつりハビリテーション病院、大間病院へ高齢福祉保険課及び保健所で説明廻り（総看護師長、連携室等関係職員）
平成 30 年 2 月 23 日	<p><市町村・ケアマネ事業報告会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村及び地域包括支援センター職員が 24 人出席 ・市町村及び地域包括支援センターへ事業報告書の内容等の意見交換
平成 30 年 3 月	<p><事業報告書の作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院、市町村、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等関係機関あて報告書を送付 ※むつ下北医師会へは持参

(4) 下北管内で開催されている各種協議会等への参加

保健・医療・福祉の関係者が連携を強化し、地域にある既存の社会資源を有効活用し、サービスを必要な人に一体的に提供できることを目的とした各種会議等に委員として参画しました。

<下北管内で開催されている各協議会等への参加>

会議名	開催日及び内容	場所
下北地域連携パス推進協議会 及び実務者連絡会	協議会及び連絡会：1回（H29.8.7） ・委員として出席	公済会館
むつ下北地域看護と介護の連 携作り委員会	委員会：4回 （H29.5.25、8.24、11.16、H30.2.22）	むつ総合病院
むつ下北地域橋渡し研修会	研修会：2回 （H29.9.2、10.14）	むつグランドホテル、下北文化会館
むつ市地域ケア会議	個別会議：1回（H29.10.18） 合同会議：1回（H30.3.20）	むつ市役所
むつ市在宅医療・介護連携推進 協議会	協議会：1回（H30.2.15） ワークショップ：1回（H29.10.8） ・委員として出席	むつ市役所、下北文化会館

(5) 市町村保健福祉活動への支援

市町村が行う保健福祉サービスの向上と、県内・圏域における保健福祉に関する情報の収集・提供等を行うことにより、管内地域健康福祉施策の円滑な実施を図ることを目的に、市町村の求めに応じて、下北地域県民局地域健康福祉部が持つ機能を活用し支援を行っています。

<市町村保健福祉活動への支援>

市町村名	市町村からの要望とその他の支援内容	支援回数
むつ市	①保健師活動打合せ ②食生活改善推進員養成講座 ③下北地域県民局とむつ市との意見交換会 ④保健協力員総会 ⑤精神ケース検討、同行訪問 ⑥その他の支援 ・むつ市地域保健協議会 ・障害福祉計画等策定委員会 ・高齢者・障害者虐待防止等連絡協議会 ・合同地域ケア会議 ・むつ市在宅医療・介護連携推進協議会 ・市町村介護予防支援事業（むつ市現地支援） ・国保・後期高齢者ヘルスサポート事業データヘルス計画作成支援に係るヒアリング ・むつ市地産地消運動協力店感謝祭（保健所ブース設置）	年31回
大間町	①保健協力会総会・研修会 ②食生活改善推進員総会・研修会 ③保健活動打合せ・評価会 ④健康づくり推進協議会	年5回

東通村	①保健師活動打ち合わせ・評価会 ②ヘルスプロモーション推進会議 ③国保・後期高齢者ヘルスサポート事業データヘルス計画作成支援に係るヒアリング ④国保・後期高齢者ヘルスサポート事業における保険者支援事業 ⑤市町村がん検診実地調査 ⑥健康まつり（保健所ブース設置）	年10回
風間浦村	①保健活動打合せ ②ゆかい村フィットネス倶楽部 ③がん検診実地調査 ④青森県新任等保健師育成支援事業 ⑤海鮮どんぶり祭りにおける健康増進コーナー設置	年9回
佐井村	①健康づくり推進協議会 ②がん検診実地調査 ③現地懇談会事前打合せ 2回 ④現地懇談会 ⑤保健活動打合せ・評価会 ⑥ヘルスアップ in 佐井（保健所ブース設置）	年6回

2 健康づくり

(1) 喫煙対策推進事業

喫煙はがん及び心臓病の重要な危険因子とされるとともに、また、喫煙者だけでなく、周囲の非喫煙者にも健康被害を及ぼすことから、喫煙による健康被害に対する予防意識の普及啓発を図ることを目的に事業を実施しました。

ア 「空気クリーン車（受動喫煙防止対策実施車両）」推進事業

現在、空気クリーン施設の登録は252件になっています。

<平成29年度までの登録状況>

認証施設の 種類	官 公 庁	文 化 施 設	保 育 施 設	教 育 施 設	医 療 施 設 (機 関)	福 祉 ・ 介 護 施 設	体 育 施 設	事 業 所	公 共 交 通 機 関	飲 食 店	宿 泊 施 設	そ の 他	タ ク シ ー 等 の 車 両	計
交付済数	10	6	72	38	31	2	39		40	2	11	1	252	

イ その他

事業名	テーマ	対象者 参加者	内容
研修会	①受動喫煙と「空気クリーン施設」について ②たばこもダメ！絶対！ ③受動喫煙対策について	①食品衛生責任者講習会 受講者 4回 251名 ②・大畑中学校生徒、教員 175名 ・大湊高校生徒、教員 590名 ・大湊高校川内庁舎生徒、教員 19名 ③・下北地区労働災害防止団体等 17名 ・理容生活衛生同業組合 30名 ・美容業生活衛生同業組合 32名 ・アックスグリーンサービス株式会社 2回計 66名	①ミニ講話 ②防煙教室 ③健康教育
検討会	①妊産婦の喫煙対策について	①むつ・下北管内母子保健ネットワーク会議 出席者 19名	①意見交換
広報活動	①ポスターの掲示・パンフレット配布 ②合同庁舎内放送	①一般住民、親と子のよい歯のコンクール参加者 ②県民局職員	①禁煙週間普及啓発及び空気クリーン施設依頼時配布 ②禁煙週間普及啓発

(2) 減塩の推進とバランスのよい食生活の普及

食の環境づくり（青森のおいしい健康応援店認定事業）

「肥満予防」「食塩摂取量の減少」「野菜摂取量の増加」を踏まえた食事メニューの提供を行う飲食店等を認定し、県民が外食等を利用する際に適切なメニューを選択できる食環境の整備を図ることを目的として実施しました。

青森のおいしい健康応援店の認定は36店になっています。

3 栄養改善

(1) 給食施設栄養管理指導事業

安全で栄養効果がある給食実施が適切に行われるために、給食従事者に対し栄養管理等について研修会や個別巡回指導を実施しました。

ア 給食施設栄養管理指導事業研修会

開催日	内 容	場 所	参加者
平成 30 年 3 月 14 日 (水)	講話 栄養食事情報提供の必要性と活用 演習 栄養食事情報提供書を書いてみよう	下北文化会館	病院、診療所、介護老人 保健施設、老人福祉施設、 障害者支援施設、福祉型 障害児入所施設、有料老 人ホームの管理栄養士、 栄養士、調理師、調理員

イ 給食施設巡回指導

年度	個別巡回指導		給食施設数	
	栄養士の いる施設	栄養士の いない施設	栄養士の いる施設	栄養士の いない施設
27	46	27	46	27
28	47	22	47	22
29	39	22	46	22

(2) 市町村栄養改善業務支援事業

市町村保健計画の企画・立案及び地域住民を対象とした栄養相談等の栄養改善業務に従事する者の資質の向上を図り、市町村の栄養改善事業の推進を図ることを目的としています。

管内市町村栄養士の配置は、平成 29 年 4 月現在、むつ市に 4 名配置されています。そのほかの管内町村の栄養改善業務は、主に地域活動栄養士が担当しています。

ア 連絡調整会議・研修会

	開催日	内 容	場 所	出席者
連絡調整会 議・研修会	平成29年 6月21日 (水)	幼児の栄養指導について 研修及び意見交換	下北文化会館	むつ市健康推進課 1 名 地域活動栄養士 1 名

イ 保健所栄養士による市町村栄養改善業務援助回数

年度	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	合計
27	4	1	2			7
28	3	2		1	1	7
29	5	1		1		7

4 母子保健

(1) 未熟児等情報共有システム

未熟児は、正常な新生児に比べて生理的に未熟で、疾病にかかりやすく、心身に障害を残すことがあり、未熟児を養育する保護者の不安等も強いことから、未熟児等訪問指導を通じて育児支援を適切にすすめ、関係機関と情報を共有し連携体制構築のため運用しています。

<平成 29 年度未熟児等情報共有システム運用状況>

市町村	低出生体重児数	未熟児等出生連絡票 受理数	未熟児等訪問指導連絡票 発行数
むつ市	40 件	19 件	20 件
大間町	6 件	2 件	2 件
東通村	4 件	2 件	2 件
風間浦村			
佐井村			
計	50 件	23 件	24 件

(2) 身体障害児等療育相談事業

身体の機能に障害のある児又は機能障害を招く恐れのある児を早期に発見し、適切な治療上の指導を行い、その障害の治療もしくは軽減を図ることを目的に療育相談を年 4 回開催しました。

また、身体障害児について障害の状態及び療育の状況を随時把握し、その状況に応じて適切な福祉の措置について指導しています。

<相談者数、相談結果(相談者数の内、新規利用者数)>

	5 月	8 月	11 月	2 月	計
要治療					
経過観察	5	8	6	9	28
異常なし					
計	5	8	6	9	28 (実人員 14)

<相談内容(延件数)>

	計
肢体不自由	11
補装具相談	1
視覚障害	2
聴覚・平衡機能障害	3
音声・言語・咀嚼機能障害	11
その他(栄養指導等)	8
計	36

(3) 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全育成及び自立促進を図るため、小児慢性特定疾病児童等及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整やその他の事業を行います。

ア 療育相談（ひまわり相談・面接指導等）の実施状況

	利用者数延人数(実人員)			相談内訳数(延人数)								
	計	男	女	申請	医療	看護	福祉	就学	栄養	歯科	他	計
定期 (12回)												
随時	19 (13)	12 (7)	7 (6)	19								19
合計	19 (13)	12 (7)	7 (6)	19								19

イ 訪問指導 ※アの再掲

訪問指導者数		
計	男	女
(3)		(3)
2		2

疾患名

- ・悪性新生物
- ・膠原病
- ・糖尿病
- ・神経・筋疾患
- ・慢性心疾患 等

ウ 電話相談 : 延べ人数 1人

(4) 妊産婦支援体制整備事業

ア 母子保健ネットワーク会議

母子が健やかに妊娠、出産を迎え、育児を行うことができるよう、母子保健における課題について関係機関が協議を行い、連携を一層強化することを目的として行っています。
構成団体（医療、保健、福祉、その他団体の関係者）

開催日	内 容	場 所	参加者
平成 29 年 12 月 11 日 (月)	平成 29 年度むつ・下北管内母子保健ネットワーク会議 (1) 情報提供内容 ・がん・生活習慣病対策課から、産後に「つながる」禁煙支援事業について ・平成 28 年度妊産婦及び未熟児等情報共有システム運用状況 (2) 事例検討 ・ハイリスク妊産婦の支援・関係機関の連携のあり方について	青森県むつ健康福祉庁舎 2 階共有会議室	構成団体 7 団体 19 名

(5) 女性健康支援事業

思春期から更年期にいたる女性はその健康状態に応じ的確に自己管理を行うことができるよう支援します。

相談状況

月 1 回の定期相談の開催、来所及び電話による随時相談を行い、相談件数は 1 件でした。

(6) 各種医療給付及び検査実施状況

ア 小児慢性特定疾病医療費助成制度

この制度は、長期にわたり療養を必要とする児童の健全育成を目的として、対象疾病の治療にかかった費用の一部を公費によって助成するとともに、治療方法等の情報を今後の治療研究に生かすものです。平成 27 年 1 月 1 日から制度改正となり、対象疾病は 11 疾患群から 14 疾患群に追加・整理されました。

平成 29 年度末現在、管内で小児慢性特定疾病医療受給者証を所持する対象児童数は 77 名となっています。

イ 小児慢性特定疾病児童手帳交付事業

上記アの対象児童に対し、緊急の連絡先等を記載する手帳（愛称：ひまわり手帳）を交付しています。平成 29 年度の管内の交付件数は 10 件となっています。

ウ 先天性代謝異常等検査

先天性代謝異常等検査は発見が遅れると障害の原因になる先天性の疾患を早期に発見し、治療することを目的として全ての新生児を対象に実施しています。

平成 25 年度から、新たな検査方法（タンデムマス法）が導入され、19 疾患について検査することが出来るようになりました。

先天性代謝異常検査結果、偽陽性であったのは 2 件、正常 0 件、確定診断 0 件あり、医療機関と連絡をとり、精密検査の受診状況について確認しました。

エ 青森県特定不妊治療費助成事業

不妊治療のうち、特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）については、1 回の治療費が高額であり、その経済的負担が重いことから、費用の一部を助成しています。

平成 29 年度の管内の助成件数は 52 件となっています。

5 歯科保健

(1) 親と子のよい歯のコンクール

幼児や保護者及び地域社会の歯科保健への関心を高めるため、健康な歯をもつ親と子を表彰し、むつ・下北地域の母子歯科保健の推進を図るものとして、平成 29 年度「親と子のよい歯のコンクール」第 1 次選考会をむつ下北歯科医師会と共催で実施しました。

第 1 次選考会では、管内市町村から推薦のあった対象者 25 組のうち 21 組が参加し、参加者の中から第 1 位の親子を決定、また参加者全員を表彰しました。

<開催実績>

開催日	内 容	場 所	参加者
平成29年 6月10日（土）	(1) 下北地域県民局地域健康福祉部 保健総室長挨拶 (2) むつ下北歯科医師会会長講評 (3) 第 1 位者発表 (4) 第 1 次選考会参加者表彰	下北文化会館 2階大集会室	管内市町村より推薦の あった親子25組のうち 21組

<参加実績>

年度	コンクール対象者 (3歳児健診むし歯0本児等)	第 1 次選考会参加者数
27	77組	28組
28	32組	16組
29	25組	21組

6 精神保健福祉

(1) 入院通院医療事務関係

ア 精神障害者申請・通報・届出及び移送の状況（平成 29 年度）（単位：件）

区 分	申請通報 届出件数	調査により 診察の 必要がないと認め た者	診察を受けた者		移送を行った件数		
			法第 29 条 該当症状 の者	法第 29 条 該当症状 でなかつ た者	調査から 1 次診察 場所まで	1 次診察 場所から 2 次診察 場所まで	2 次診察 場所から 病院まで
一般の申請							
警察官の通報	1		1		1	1	1
検察官の通報	1	1					
保護観察所長の通報							
矯正施設の長の通報	1	1					
病院の管理者の届出							
計	3	2	1		1	1	1

イ 措置入院者（単位：人）

28 年度末患者数	29 年度中新規患者数	29 年度中解除患者数	29 年度末患者数
0	1	1	0

ウ 入院形態別患者数（管内医療機関 平成 30 年 3 月 31 日現在）（単位：人）

	総 数	措置入院	医療保護入院	任意入院	その他の入院
平成 27 年度	47		31	16	
平成 28 年度	47		33	12	
平成 29 年度	46		23	23	

エ 病名別入院患者数（管内医療機関 平成 30 年 3 月 31 日現在）（単位：人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
統合失調症	27	23	22
躁うつ病	7	5	6
精神神経症	1	1	2
精神病質			
精神遅滞	3		
てんかん	3	2	1
中毒性精神障害			3
その他及び不明			
脳器質性精神障害	4	15	12
その他の精神病	2	1	
計	47	47	46

オ 精神障害者保健福祉手帳所持者数（各年度末日現在）

（単位：人）

	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	計	
平成 27 年度	486	31	47	11	16	591	
平成 28 年度	532	37	52	11	18	650	
平成 29 年度	計	560	37	48	14	20	679
	1 級	133	5	15	3	5	161
	2 級	355	25	24	9	14	427
	3 級	72	7	9	2	1	91

カ 自立支援医療受給者証（精神通院）所持者数（平成 30 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	計
症状性を含む器質性精神障害	23	1	2			26
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	16	1	2	1		20
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	375	23	32	9	8	447
気分（感情）障害	164	15	9	7	5	200
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	65		3			68
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群						
成人の人格及び行動の障害	11		1			12
知的障害（精神遅滞）	32		4	1	1	38
心理的発達障害	62		3	1		66
小児（児童）期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び詳細不明の精神障害	12	1	1			14
てんかん	81	6	8	4	4	103
その他の精神障害						
分類不明	62	4	2			68
計	903	51	67	23	18	1062

(2) 精神保健福祉相談状況

実施日 指定日 (年5回) 受付時間 午後2時～3時 従事者 精神科医
 毎月第1月曜日 受付時間 午後1時～2時 従事者 保健師

<相談内容別相談件数>

(単位：件)

		平成28年度相談件数	平成29年度相談件数	相談内容別															
				受診・入院について	通院・服薬について	生活指導等について	経済的問題	性格・行動上のこと	患者への接し方について	アルコールについて	薬物について	人間関係について	施設入所について	社会復帰について	福祉サービスについて	ひきこもりについて	自殺関連	思春期	その他
来所	定期	9	6	1				2	1										
	随時	23	19	3				8		3			1						4
	電話	63	60	2		1	1			1			5					22	28
	計	95	85	6		1	1	10	1	4			5	1				22	32

(3) 家庭訪問指導状況

<家庭訪問指導件数>

(単位：件)

	平成28年度	平成29年度	対象者別訪問状況				支援内容 (延件数)								
			総計	一般	社会復帰	アルコール	受診に向けた調整	通院・服薬指導	生活指導	アルコール	薬物	社会復帰	自殺関連		
延数	64 (18)	35 (16)	35 (16)	28 (14)	7 (2)		11	4	11					1	

※ () 内の数値は実数

(4) 自殺対策事業

ア 包括的基盤強化事業

(ア) 多分野合同研修会

開催日	出席者	内容
平成 30 年 3 月 1 日 (木)	労働関係、経済問題相談窓口、医療機関、市町村等計 22 名 (事務局含む)	1 情報提供 「下北地域の自殺の状況と関係機関の取り組みについて」 むつ保健所健康増進課 主査 鈴木 美佳 2 講演・事例検討 「多職種が連携して支援するために」 講師 青森大学社会学部 社会学科 船木昭夫 教授

(5) 市町村活動への支援

ア 事例検討会への参加等

市町村名	内 容
むつ市	医療観察法に係るケア会議 (1 事例、計 1 回)、ケア会議 (1 事例、計 1 回)
風間浦村	医療保護入院者退院支援委員会 (1 事例、1 回)、退院前カンファレンス (1 事例、1 回)

イ 市町村との同行訪問

受診援助や継続ケース等への同行訪問を 18 件行いました。うち、市町村保健師との同行訪問は 9 件でした。

(6) 精神障害者家族会及び当事者への支援

ア 精神障害者家族会

家族会名	内 容
むつ下北メンタル福祉家族会連合会	・下北地域メンタル家族会学習・交流会に参加 (1 回)
大畑町メンタル福祉家族会ひばの会	・総会に出席 (1 回)

<管内家族会の状況>

家族会名	設立年月日	事務局	会員数 (H29 年度末)
あじさいの会 (むつ市)	昭和 63 年 11 月 9 日	アックス工房内	休止中
北通り地区精神障害者家族会	平成 5 年 3 月 10 日	風間浦村村民生活課	8 人
ふれあい家族会 (川内町)	平成 6 年 7 月 7 日	むつ市役所川内庁舎	休止中
ひばの会 (大畑町)	平成 13 年 4 月 11 日	むつ市役所大畑庁舎	11 人
むつ下北メンタル福祉家族会連合会	平成 21 年 7 月 23 日	アックス工房内	
きさらぎの会 (アックス工房)	平成 23 年 2 月 27 日	アックス工房内	28 人

東通村いちいの会 (※3障害の家族会を統合)	平成26年4月1日	東通村社会福祉協議会	34人
---------------------------	-----------	------------	-----

イ 当事者の会「なごみの会」

平成28年4月～休会中。

(7) 関係機関等連絡会議

会議名	開催月日	場所	開催内容	出席者
精神科救急医療システム連絡調整委員会	平成30年 2月9日 (金)	公済会館	1 整備事業概要について 2 救急医療システム実績報告 3 救急医療システム実施状況 4 意見交換 医療機関の受入拒否によるたらい回しや、退院後のフォローの難しについて意見が出された。	委員 7名 オブザーバー 6名 事務局 4名 計17名

(8) 地域生活支援広域調整等事業

平成26年4月の精神保健福祉法の一部改正により、精神障害者の地域生活への移行促進に向けた見直しが行われました。精神障害者本人とその家族が、住み慣れた地域で適切な医療を受け、本人が希望する生活を送ることができるよう、医療・保健・福祉分野の関係機関が連携して支援する体制づくりが必要となっています。

ア 下北地域生活支援広域調整会議

開催日	出席者	内容
平成29年 12月8日(金)	30名 (指定特定相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療機関、市町村、保健所)	1. 情報提供① 「下北地域の長期入院者の現状について」 2. 情報提供② 「地域移行支援を円滑に進めていくために～青森市での取り組み～」 青森市浪岡事務所 精神保健福祉士 波田野隼也 相談支援事業所ほたる 相談支援専門員 福士耕太氏 3. 事例検討 4. 意見交換

イ ケースの情報交換

日時	場所	出席者	内容
平成29年 4月14日(金)	むつ保健所	7名 相談支援事業所3カ所、保健所	地域移行支援を利用予定のケース2名について、どのように支援していくか。
平成29年 11月16日(木)	東通村役場	6名 相談支援事業所1カ所、東通村、保健所	地域移行支援を利用している東通村ケースの進捗状況の確認並びに情報共有。

7 難病

(1) 指定難病医療費助成制度及び特定疾患治療研究事業

原因不明で治療方法が確立していない、いわゆる難病のうち、厚生労働省が定める疾病を指定難病といい、指定難病の患者に対して治療に係る医療費の一部を助成する制度を行っています。平成 27 年 1 月 1 日から「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され、平成 30 年 4 月 1 日までに医療費助成の対象疾病が段階的に 331 疾病まで拡大されました。なお、制度改正前に特定疾患治療研究事業で対象であった 5 疾患については、負担の軽減を図ることを目的に同事業で医療費の一部を公費負担しています。

平成 29 年度末における医療受給者は 490 名です。

ア 病名別特定医療受給者数

疾病 番号	病 名	受 給 者 数		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
002	筋萎縮性側索硬化症	6	7	4
005	進行性核上性麻痺	4	3	5
006	パーキンソン病	77	74	71
007	大脳皮質基底核変性症	2	2	2
011	重症筋無力症	11	10	10
013	多発性硬化症／視神経脊髄炎	12	12	16
014	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	1	1	2
017	多系統萎縮症	6	5	7
018	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	30	30	29
019	ライソゾーム病	5	5	5
021	ミトコンドリア病	2	2	
022	もやもや病	10	8	3
023	プリオン病		1	1
026	HTLV-1 関連脊髄症		1	1
027	特発性基底核変性症			1
028	全身性アミロイドーシス	1	1	1
034	神経線維腫症	5	5	3
035	天疱瘡	2	2	1
037	膿疱性乾癬(汎発型)	1	1	1
038	スティーヴンス・ジョンソン症候群		1	
040	高安動脈炎	6	5	4
042	結節性多発動脈炎	2	1	1
043	顕微鏡的多発血管炎	4	4	4
044	多発血管炎性肉芽腫症	2	2	2
045	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	2	2
046	悪性関節リウマチ	6	5	3
047	バージャー病	10	10	6
049	全身性エリテマトーデス	30	31	26

疾病 番号	病 名	受 給 者 数		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
050	皮膚筋炎／多発性筋炎	6	6	6
051	全身性強皮症	7	7	6
052	混合性結合組織病	8	8	5
053	シェーグレン症候群	1	5	3
054	成人スチル病		1	3
056	ベーチェット病	16	16	13
057	特発性拡張型心筋症	11	10	9
058	肥大型心筋症	2	2	1
060	再生不良性貧血		1	
061	自己免疫性溶血性貧血		1	1
063	特発性血小板減少性紫斑病	18	17	7
065	原発性免疫不全症候群	1	2	2
066	IgA 腎症	7	5	4
067	多発性嚢胞腎	1		1
068	黄色靱帯骨化症	6	7	3
069	後縦靱帯骨化症	42	42	29
070	広範脊柱管狭窄症			2
071	特発性大腿骨頭壊死症	22	22	13
072	下垂体性 ADH 分泌異常症			1
074	下垂体性 PRL 分泌亢進症	1	1	1
077	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1	2	4
078	下垂体前葉機能低下症	12	12	9
081	先天性副腎皮質酵素欠損症	1	1	1
084	サルコイドーシス	19	18	8
085	特発性間質性肺炎	6	7	5
086	肺動脈性肺高血圧症		1	2
089	リンパ脈管筋腫症	1	1	1
090	網膜色素変性症	13	13	12
093	原発性胆汁性肝硬変	20	18	13
095	自己免疫性肝炎	2	4	4
096	クローン病	32	33	25
097	潰瘍性大腸炎	78	78	64
113	筋ジストロフィー		3	3
117	脊髄空洞症	1		
119	アイザックス症候群		1	1
127	前頭側葉変性症			1
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	1	1	1
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）			2
218	アルポート症候群		1	
222	一次性ネフローゼ症候群	6	7	8
271	強直性脊椎炎		1	1
296	胆道閉鎖症		1	1

疾病 番号	病 名	受 給 者 数		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
300	IgG4 関連疾患			1
306	好酸球性副鼻腔炎	1	2	2
合 計		579	589	490

イ 病名別特定疾患医療受給者数

	病 名	受 給 者 数		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	スモン	1	1	1
2	プリオン病（ヒト由来乾燥硬膜移植によるクロイツフェルト・ヤコブ病に限る。）			
3	重症多形滲出性紅斑（急性期）			
4	難治性の肝炎のうち劇症肝炎			
5	重症急性膵炎			
合計		1	1	1

（2）難病患者地域支援対策推進事業

ア 難病患者等相談事業

（ア）医療相談

難病患者やその家族の医療及び日常生活上の相談に対し、専門職による指導・助言を行い、在宅療養における疾患等に対する不安の解消を図りました。

開催日、開催場所	対象	参加者数	内 容	個別相談
平成 29 年 9 月 9 日(土)	全疾患	県内難病患者と家族 86 名 県内の難病関係者	第 1 部 医療講演会 ・「難治性自己免疫疾患の克服へ向け て」 講師 弘前大学大学院医学研究科 地域医療学講座 櫻庭裕大 ・報告「下北地域の難病事業について」 報告者 むつ保健所 横浜まり子 第 2 部 分科会（10 ケ所） ①ALS②脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 ③膠原病④網膜色素変性症⑤てんかん ⑥オストメイト⑦腎臓病・人工透析 ⑧フットケア⑨パーキンソン病 ⑩潰瘍性大腸炎・クローン病	

（イ）訪問相談

医療相談に参加できない難病患者・家族が抱える日常生活及び療養上の悩みに対して相談を行うため、5名の在宅保健師に訪問相談員の証を交付し、選定した難病患者へ継続して訪問支援をしました。活動日数は19日、活動件数は延べ24件（実件数12件）でした。

(3) 青森県重症難病患者在宅療養支援事業

一時入院は2名の患者が利用登録を行いました。

(4) その他の活動

ア 家庭訪問

主に患者や家族、関係機関から訪問依頼があった患者等に対して訪問しました。実件数20件、延べ30件行いました。

イ 所内面接指導

特定医療受給者証新規交付時や更新時及び随時相談を行いました。128件の相談件数でした。相談内容は、申請等に関すること、医療、家庭看護、福祉制度、就労、食事・栄養に関するもの等でした。

ウ 電話相談

随時電話相談を行い、相談件数は2件でした。

8 人材育成

(1) 初任期及び新任期保健師研修

初任期及び新任期保健師が保健師の専門性を発揮し、「みる」「つなぐ」「動かす」という地域保健活動を展開できるよう、対人支援や保健事業実施のための基本的な実践能力を身につけることを目的に研修会を開催しました。

<初任期>

- ・対象者：3人（むつ市：1人、風間浦村：1人、保健所：1人）
- ・2回開催

	開催日	内容	場所	参加者
1	平成 29 年 10 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「市町村と保健所の保健師の役割について」 ・演習「事例検討」 ・到達目標及び行動目標チェック 	むつ健康福祉庁舎	3人
2	平成 30 年 3 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・演習「地域診断～事業を通して地域を診る～」 ・情報交換「先輩保健師からのエール」 ・今年度の振り返り 	むつ合同庁舎	3人

<新任期>

- ・対象者なしのため開催なし

(2) 青森県新任等保健師育成支援事業

市町村の20歳代等の若手保健師が行う保健活動について、行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として直接支援を行い、「地域を見る能力」「地域に暮らす人々や資源をつなぐ能力」「地域を動かす能力」等、保健師が有する専門能力の向上を図ることを目的に実施しています。

平成29年度は、風間浦村が活用しました。

トレーナー活動期間	平成29年6月～平成30年2月（活動日数：18日）
支援状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問（特定保健指導、がん検診要精検者、精神障害者）：10日（訪問件数：42件） ・地域診断：1日（村の健康課題の整理等） ・その他：3日（打合せ、中間、評価会）

(3) 青森県保健所保健師等育成支援事業

地域県民局地域健康福祉部保健総室の新任保健師が行う保健活動について、行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として直接支援を行い、「地域を見る能力」「地域に暮らす人々や資源をつなぐ能力」等、保健師が有する専門能力の向上を図ることを目的に実施しています。

トレーナー活動期間	平成29年6月～平成30年2月
支援状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問 10日（訪問件数 19件） ・関係機関連絡 2日（保育所、障害児施設、役場訪問等） ・その他 5日（打合せ会、計画・資料作成、健康教育準備、地区診断、評価会）

(4) 保健師連絡会議

市町村のリーダー期及び次期リーダー保健師がその機能を発揮し、チームリーダーとしての役割を果たすことを目的に開催しました。

- ・対象者：市町村管理期保健師、市町村中堅後期保健師、保健所保健師
- ・2回開催

	開催日	内容	場所	参加者
1	平成 29 年 8 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・講話及び意見交換「統括及び次期リーダー保健師の役割について」 ・協議及び情報交換「平成 29 年度保健師活動の重点事業及び新規事業等の取組について」 	むつ健康福祉庁舎	15 人 ・市町村：9 人 ・保健所：6 人
2	平成 30 年 1 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・演習「自然災害時における保健師の役割」 ・情報提供「大規模災害発生時の県健康福祉部の体制見直し」 ・情報交換「平成 29 年度保健師活動の重点事業及び新規事業等の取組状況について」 ・保健師の人材育成について 	むつ健康福祉庁舎	16 人 ・市町村：8 人 ・保健所：6 人 ・本庁：2 人

(5) 看護学生等実習

実習学校名	実習期間・学生数	実習内容
青森県立保健大学健康科学部看護学科「保健学コース」	7 月 10 日～13 日 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・所長、次長、各課長、各課担当者（母子・難病・精神・結核・感染症等）からの業務説明 ・家庭訪問見学、訪問後カンファレンス
弘前医療福祉大学保健学部看護学科	10 月 10 日～13 日 3 名	
弘前学院大学看護学部看護学科	5 月 30 日～6 月 2 日 6 名	
青森県立保健大学健康科学部栄養学科	6 月 19 日～23 日 4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・所長、次長、各課長、各課担当者（母子・健康づくり・地区組織活動）からの業務説明 ・健康教育、1 歳 6 か月児健診・給食施設巡回指導等見学

9 総合的地域診断システム構築事業

地域及び保健所関連業務に係るデータを総合的に分析し、企画評価に活用することにより、複雑多様化する健康課題の解決に向けた確で効果的な健康施策を推進することを目的に、市町村地域診断等に関する事として、特定健診・レセプトデータ等の集計及び総合的地域診断システム推進事業を実施しました。

(1) 市町村地域診断等に関する事

これまでも特定健康診査データ及びレセプトデータを用いた地域診断を実施してきたが、レセプトデータをより分析しやすいように新たにツールが作成されたことから、このツールを用いて、市町村がレセプトデータの分析を行うことにより、地域診断を実施し、より効果的で効率的な「健活」を推進できるようにすることを目的に実施しました。

(2) 総合的地域診断システム推進事業

県本庁や保健所が担うべき情報分析機能を強化するために、ITを活用した「知（情報）の伝承」システムを構築するため、難病・精神関係の分析のためのツールが平成23年度開発され、相談等で活用が図られています。

10 組織育成

(1) 保健協力員連絡会

健康づくりの担い手である保健協力員活動の活性化を図り、地域住民の健康水準の向上につなげるために、自主的活動に向けての支援を行いました。

ア 市町村保健協力員配置状況（平成 29 年度）

（単位：人）

市町村名	むつ市 むつ地区	むつ市 川内地区	むつ市 大畑地区	むつ市 脇野沢地区	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	計
協力員数	126	40	73	23	38	60	30	34	424
組織会の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	
設置年月日	S38年1月	S36年9月	S33年4月	H7年7月	S54年1月	H6年11月	S54年7月	S48年4月	

イ 保健協力員連絡・研修会事業

青森県国民健康保険団体連合会からの助成を受け実施しました。

役員会で研修内容を計画し、それぞれが役割を果たし、主体性を持って取り組みました。

開催日	場 所	研修内容	参加者
平成 29 年 6 月 15 日 (木)	むつ保健所	第 1 回管内保健協力員連絡会役員会 1. 平成 29 年度役員体制について 2. 平成 28 年度下北地方保健協力員連絡会実績報告 3. 平成 28 年度収支決算報告 4. 平成 29 年度収支予算案 5. 平成 29 年度下北地方保健協力員連絡研修会について 6. 各市町村の平成 29 年度活動計画について	19 人
平成 29 年 11 月 10 日 (金)	むつ来さま い館	平成 29 年度下北地方保健協力員連絡会研修会 1. 講話及び演習 「笑いヨガ～笑いの力で健康寿命 UP!～」 講師 青森笑いヨガ研究所 津島弘美氏 2. 活動発表 風間浦村保健協力会、佐井村保健協力会 3. 交流会 「自分たちの活動をパワーアップさせよう！」	81 人
平成 30 年 2 月 9 日 (金)	むつ保健所	第 2 回管内保健協力員連絡会役員会 ①平成 29 年度活動報告、収支決算報告 ②平成 30 年度活動計画案及び予算案について ③平成 30 年度役員体制について ④情報交換 ・各地区活動経過報告 ・その他	17 人

(2) 食生活改善推進員連絡協議会

地域に密着した食生活改善活動にあたる食生活改善推進員の調理実習等地区組織活動を指導、支援しました。

ア 市町村食生活改善推進員の配置状況

(平成30年3月現在) (人)

市町村名	むつ市 むつ地区	むつ市 川内地区	むつ市 大畑地区	むつ市 脇野沢地区	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	合計
会員数	34	37	20	11	20	30	30	10	192

イ 管内食生活改善推進員連絡協議会の育成・支援

開催日	場 所	内 容	参加
平成29年 4月21日(金)	むつ保健所	第1回役員会 ・管内協議会総会の運営について	9人
平成29年 6月22日(木)	むつ保健所	第2回役員会 ・平成29年度新規事業について	8人
平成29年 5月30日(火)	むつ市中央公民館	管内食生活改善推進員連絡協議会並総会びに研修会 講話「食生活と健康づくりについて」 むつ保健所健康増進課 主幹 中村広美	51人
平成29年 10月4日(水)	むつ保健所	第3回役員会 ・だし活キッチンにおける「おにぎり」レシピについて	8人
平成29年 12月12日(火)	むつ保健所	第4回役員会 ・飲食店麺類改善事業について	7人
平成29年 9月8日(金)	下北文化会館	管内合同研修会 ・生涯骨太クッキング(生活習慣病とロコモ予防)調理実習	32人
平成29年 10月4日(水)	下北文化会館	だし活伝道師ステップアップ研修会	32人
平成30年 1月9日(火)	むつ保健所	第5回役員会 ・飲食店麺類改善事業について、県理事会報告	10人

(3) 地域保健関係者研修

多様化・高度化する保健ニーズを有する地域住民がより主体的に健康を高め、地域において安心して生活できるよう、その支援者である地域健康福祉部・市町村等の地域保健関係者が、健康な地域づくりを目指して専門的知識や技術を習得し、生活者重視の視点にたった保健福祉サービスが提供できるように、地域保健関係者の資質の向上及び関係者間の連携強化の方法について研修することを目的として実施しました。

回数	年月日	研修内容		対象者	受講者数				
		テーマ	講師等		健康福祉部	市町村	関係者	その他	計
1	平成 29 年 7 月 22 日	神経難病患者の在宅療養支援	青森県立中央病院 臨床工学部 技師 阿部 誠 むつ総合病院 地域連携部 主任保健師 二本柳 舞 フィリップ ス・レスピ ロクス 弘前営業所長 成田 誠	難病患者の支援 に関わる保健・医療・福祉関係職員	6	3	33		42
2	平成 29 年 8 月 31 日	保健師連絡会議（第 1 回） (1) 講話及び意見交換 「統括及び次期リーダー保健師の役割について」 (2) 協議及び情報交換 「平成 29 年度保健師活動の重点事業及び新規事業等の取組について」	がん・生活習慣病対策課 総括副参事 三浦 たみ子	管内保健師 (管理期保健師、 中堅後期保健師、 保健所保健師)	6	8	1		15
3	平成 29 年 11 月 28 日	感染症の発生予防と拡大防止対策	むつ総合病院 感染対策室 感染管理認定看護師 工藤 一美	保育所、幼保連携型認定こども園の職員	6	1	23		30
4	平成 30 年 1 月 24 日	保健師連絡会議（第 2 回） (1) 演習〈伝達研修〉 「自然災害時における保健師の役割」 (2) 情報提供 「大規模災害発生時の県健康福祉部の体制見直しについて」 (3) 情報交換 「平成 29 年度保健師活動の重点事業及び新規事業等の取組状況について」 (4) 「保健師の人材育成について」〈伝達研修〉	むつ保健所 健康増進課 主幹 阿部 久美 健康福祉政策課 主査 成家 昌治 むつ保健所 健康増進課長 鳥谷部 牧子	管内保健師 (管理期保健師、 中堅後期保健師、 保健所保健師)	6	8	2		16

1 1 虚偽・誇大広告の禁止等食品の表示に関する指導・相談

健康増進法に基づく虚偽・誇大広告の禁止、食品表示法に基づく栄養成分表示等に関する食品の表示が規定通りに行われることを目的として、食品関連業者からの相談を受け、また指導を実施していますが、虚偽・誇大広告の禁止に関する指導・相談及び栄養成分表示に関する指導・相談は0件でした。

1 2 石綿（アスベスト）に係る健康相談状況

石綿（アスベスト）に係る健康被害状況について関係企業から相次いで公表されていることを契機として、住民の石綿に対する健康不安が高まっていることを受けて、県では、国の指示を受けて保健所においてアスベストに関する健康相談を平成17年7月より実施し、平成29年度は、来所相談及び石綿健康被害救済給付申請件数は5件でした。

1 3 感染症予防

(1) エイズ予防関係

エイズ及び性感染症の予防・まん延防止を図るため、保健所に相談窓口を開設し、匿名での相談・無料の検査を月1回実施しています。HIV抗体検査の他、性器クラミジア抗体検査及び梅毒血清検査を行っています。

区分 年度	採血件数		相談件数		相談内訳			
					電話		来所	
	男	女	男	女	男	女	男	女
27	4	7	13	1	13	1		
28	4	3	5		5			
29	5	5	11		11			

(2) ウイルス性肝炎検査・相談

ウイルス性肝炎（B型・C型）の感染者の早期発見と早期治療に結びつけ、肝硬変、肝がん等への進行を防ぐことを目的に、平成23年4月より無料の検査を月1回実施しています。

区分 年度	採血件数		相談件数		相談内訳			
					電話		来所	
	男	女	男	女	男	女	男	女
27	4	4	2	1	2	1		
28	1	3		1		1		
29	3	1						

(3) 感染症発生状況（全数把握感染症）

(人)

病名		平成27年	平成28年	平成29年
一類感染症	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	ペスト			
	マールブルク病			
	ラッサ熱			
二類感染症	急性灰白髄炎			
	結核	13	11	15
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
三類感染症	コレラ			
	細菌性赤痢			1
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	
	腸チフス			
	パラチフス			
四類感染症	ツツガムシ病	1		

病 名		平成27年	平成28年	平成29年
五類感染症	アメーバ赤痢	1	2	
	ウイルス性肝炎（A型・E型除く）			
	梅毒			2
	麻しん			
	その他の感染症（省令で規定）	1(カルバペネム耐性腸内細菌感染症)	2(カルバペネム耐性腸内細菌感染症・水痘(入院例))	1(侵襲性肺炎球菌感染症)

注) 感染症発生動向調査システムデータから

(4) 感染症サーベイランス事業（定点把握感染症）

管内における定点医療機関は6か所で、インフルエンザ6か所・小児科4か所・眼科1か所・基幹1か所からの報告を集計し、週単位または月単位で県や国へ報告しています。

平成29年において最も報告数が多いのはインフルエンザ、これに続いて、感染性胃腸炎となっています。

感染症の発生動向をみながら、関係機関に情報提供し感染拡大防止に活用しています。

感染症サーベイランス年次状況

報告(届出)区分	調査単位(届出期間)	疾 患 名	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
インフルエンザ定点	週 (次の月曜)	インフルエンザ	1,193	1,944	1,966
小児科定点	週 (次の月曜)	RSウイルス感染症	33	62	87
		咽頭結膜熱	43	8	52
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	152	319
		感染性胃腸炎	1,166	950	886
小児科定点	週 (次の月曜)	水痘	72	148	64
		手足口病	798	35	346
		伝染性紅斑	205	111	9
		突発性発しん	85	77	84
		百日咳※		2	
		ヘルパンギーナ	80	132	103
		流行性耳下腺炎	40	149	225
眼科定点	週 (次の月曜)	急性出血性結膜炎			
		流行性角結膜炎	3		3
性感染症定点	月 (翌月初日)	性器クラミジア感染症	7	1	8
		性器ヘルペスウイルス感染症			
		尖形コンジローム	3	2	4
		淋菌感染症			
基幹定点	週 (次の月曜)	クラミジア肺炎（オウム病を除く）			
		細菌性髄膜炎		1	5
		マイコプラズマ肺炎	156	240	141
		無菌性髄膜炎			
	月 (翌月初日)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8		
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			
		薬剤耐性緑膿菌感染症			
		薬剤耐性アシネトバクター感染症			

※百日咳は平成30年度から対象外となります。

(5) 青森県肝炎治療特別促進事業（肝炎治療費助成制度）

平成20年度より、将来の肝硬変、肝がんの予防及び肝炎ウイルスの感染防止を図ることを目的にインターフェロン治療による「肝炎治療医療費助成」を行っています。医療費助成の対象は年々拡大しており、平成30年2月にはC型慢性肝炎又はChild-Pugh分類Aの代償性肝硬変に対するインターフェロンフリー治療（レジパスビル／ソホスブビル配合錠による治療が医療費助成の対象になっています。

<肝炎治療受給者証申請件数>

(件)

区分 年度	インターフェロン治療	インターフェロン 3剤併用治療	インターフェロン フリー治療	核酸アナログ製剤 治療
平成 29 年度			5	49
平成 28 年度			38	44
平成 27 年度		1	41	42

1 4 結核患者支援

我が国における近年の結核罹患状況は、若年者層では低いですが、社会の高齢化と共に発病者の高齢化も進み全体では横ばいの傾向にあります。管内では、幸いなことに若年者の発病は少なく、集団感染事例は起きていませんが、受診の遅れや診断の遅れによる重症化がみられます。

平成19年4月1日より結核予防法が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に統合され、定期健康診断の結核検診は一般住民・事業所等の必ず検診を受けなければならない者（対象）が緩和されました。一方、接触者健康診断は通知から勧告、措置と強化されました。

(1) 結核診査協議会

結核診査協議会は月2回開催し、結核患者の入院勧告の可否及び医療内容の適否について診査しています。

区分 年度	感染症法第37条の2関係 (医療内容の適否)	感染症法第20条関係 (入院勧告の可否)	計 (件)	備 考
平成29年	13	5	18	
平成28年	11	1	12	
平成27年	13	13	26	

(2) 新登録患者数（市町村・年齢別）

全国的には結核患者が高齢者に偏在する傾向は変わりませんが、若年者の発病も目立ってきている点を留意しなければなりません。新登録患者のうち、管内の高齢者層の70才以上が占める割合は、平成27年55%、平成28年66%、平成29年85%となっています。

(平成29年度)

年齢階級	0	5	10	15	20	30	40	50	60	70	計	結核 感染症 (別掲) 潜在性
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
市町村	4	9	14	19	29	39	49	59	69			
む つ 市						1	1	1	4	6	13	8
大 間 町										2	2	
東 通 村												
風 間 浦 村												
佐 井 村												
平成29年									1	6	7	8
平成28年						1				2	3	9
平成27年						1	1		2	5	9	4

(3) 全登録者数（市町村・年齢別）

全登録者数は高齢者層に多く、28年は30～49歳の比較的若年の層と60歳以上とで、半々となっていました。29年は比較的若年の層と60歳以上の層との比率は約1:3となっています。

（平成29年12月31日現在）

市町村	年齢階級										
	0 ～ 4	5 ～ 9	10 ～ 14	15 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	計
むつ市						2	1		2	4	9
大間町										2	2
東通村											
風間浦村										2	2
佐井村											
平成29年						2	1		2	8	13
平成28年						2	2	1	1	3	9
平成27年					1	1	2	1	3	8	16

※ 潜在性結核感染症は除く

(4) 結核患者登録状況（市町村・活動性別）

ア 新登録患者

（平成29年度）

市町村	計	性別		肺結核				活動性 肺外 結核
		男	女	登録時菌所見				
				喀痰塗抹陽性		その他の結核菌 陽性	菌陰性 その他	
				初回治療	再治療			
むつ市	5	1	4	3			2	
大間町	2	1	1			1	1	
東通村								
風間浦村								
佐井村								
計	7	2	5	3		1	3	

※ 潜在性結核感染症は除く

イ 全登録患者

(平成29年12月31日現在)

市町村	計	性別		活 動 性 結 核					不活動性結核
		男	女	肺 結 核			活動性肺外結核		
				登録時菌所見					
				喀痰塗抹陽性		その他の結核菌陽性			
				初回治療	再治療			菌陰性その他	
む つ 市	9	3	6	3		1	4	1	
大 間 町	2	1	1			1	1		
東 通 村									
風 間 浦 村	2		2	1				1	
佐 井 村									
計	13	4	9	4		2	5	2	

※ 潜在性結核感染症は除く

(5) 結核患者有病率及び罹患率

人口の少ない町村では、患者1人が有病率・罹患率に与える影響が大きく、増減の変動が大きくなるため単年の結果による評価が困難です。平成26年から罹患率が減少していましたが、平成29年は上昇に転じました。

区分	人口 H29・10・1推定人口	登録活動性 患者数	有病率 (人口10万人対)	新登録 患者数	罹患率 (人口10万人対)
む つ 市	56,585	9	15.91	5	8.8
大 間 町	4,994	2	40.05	2	40.1
東 通 村	6,324				
風 間 浦 村	1,855	2	107.82		
佐 井 村	2,015				
平成29年	71,773	13	18.11	7	9.8
平成28年	73,307	8	10.91	4	5.5
平成27年	74,459			6	8.1

(注) 登録活動性患者数：有病率は平成29年12月31日現在

新登録患者数：罹患率は平成29年中

※ 有病率＝(年末活動性全結核患者数)÷(人口)×(10万)

※ 罹患率＝(年間新登録患者数)÷(人口)×(10万)

※ 潜在性結核感染症は除く

(6) 定期結核健康診断

ア 一般住民結核検診状況

(平成 29 年度)

種別 市町村別	胸部X線撮影			BCG接種		
	対象数 (A)	受診者数 (B)	受診率 (B)/(A) %	対象数 (C)	被注射者数 (D)	受診率 (D)/(C) %
むつ市	19,017	2,874	15.1	401	341	85.0%
大間町	1,769	342	19.3	35	40	114.3%
東通村	2,220	797	35.9	34	35	102.9%
風間浦村	1,411	383	27.1	5	5	100.0%
佐井村	1,627	432	26.6	3	6	200.0%
平成29年	26,044	4,828	18.5	478	427	89.3%
平成28年	19,029	4,616	24.3	472	481	101.9%
平成27年	15,286	4,154	27.2	563	549	97.5%

(注) (B) は間接撮影を省略して直接撮影のみ行った者を含む。

イ その他事業所等結核健康診断状況

(平成 29 年度)

	エックス線検査			精密検査 指導区分			
	対象数 (A)	受診者数 (B)	受診率 (B)/(A) %	対象数 (C)	受診者数 (D)	受診率 (C)/(D) %	菌検査
使用者	3,586	3,495	97.5	20	17	85.0	
学校長	648	640	98.8	8	7	87.5	
施設長	723	654	90.5	33	31	93.9	
平成29年度	4,957	4,789	96.6	61	55	90.2	
平成28年度	3,727	3,540	95.0	51	44	86.3	
平成27年度	2,105	2,017	95.8	29	28	96.6	

(7) 接触者健康診断

接触者健康診断においては、平成 29 年は胸部X線検査延べ 30 件、QFT-3G検査延べ 39 件実施しました。

接触者 健康診断		胸部X線検査 直接撮影者数	QFT-3G検査数	被発見者	
				結核患者	発病の恐れがある者
接 触 者 健 康 診 断	家 族	6	31		
	そ の 他	24	8	7	

※被発見者には潜在性結核患者を含む。

(8) 相談及び訪問指導状況

年内の全新規登録者 15 名のうち、14 名（死亡後登録 1 名）に対し延べ 41 件の訪問指導を実施しました。所内相談は 18 件、電話相談は接触者や施設からの感染不安、健診等を主に 14 件でした。

(9) 結核対策特別促進事業

ア 院内 DOTS カンファレンス

喀痰塗沫陽性患者 1 名について、独立行政法人国立病院機構青森病院で退院時 DOTS カンファレンスを実施しました。

実施回数：1 回

イ 地域 DOTS カンファレンス

対象者がありませんでした。